

第5回教育委員会（定）

開会日時 令和6年 2月 26日（月） 午前 10時00分
閉会日時 午前 10時23分
開会場所 教育支援センター

出席者

| | |
|-------|---------|
| 教 育 長 | 中 川 修 一 |
| 委 員 | 高 野 佐紀子 |
| 委 員 | 青 木 義 男 |
| 委 員 | 長 沼 豊 |
| 委 員 | 野 田 義 博 |

出席事務局職員

| | | | |
|------------|---------|------------|---------|
| 事務局次長 | 水 野 博 史 | 地域教育力担当部長 | 雨 谷 周 治 |
| 教育総務課長 | 諸 橋 達 昭 | 学 務 課 長 | 金 子 和 也 |
| 指 導 室 長 | 氣 田 眞由美 | 新しい学校づくり課長 | 柏 田 真 |
| 学校配置調整担当課長 | 早 川 和 宏 | 施設整備担当副参事 | 伊 東 龍一郎 |
| 生涯学習課長 | 太 田 弘 晃 | 地域教育力推進課長 | 高 木 翔 平 |
| 教育支援センター所長 | 石 野 良 恵 | 中央図書館長 | 松 崎 英 司 |

署名委員

教育長

委 員

午前 10時 00分 開会

教 育 長 おはようございます。本日は4名の委員の出席を得ましたので、委員会は成立しております。

それでは、ただいまから、令和6年第5回の教育委員会を開催いたします。

本日の会議に出席する職員は、水野次長、雨谷地域教育力担当部長、諸橋教育総務課長、金子学務課長、氣田指導室長、柏田新しい学校づくり課長、早川学校配置調整担当課長、伊藤施設整備担当副参事、太田生涯学習課長、高木地域教育力推進課長、石野教育支援センター所長、松崎中央図書館長、以上12名でございます。

本日の議事録署名委員は、会議規則第29条により、長沼委員にお願いいたします。

本日の委員会は2名から傍聴の申し出がなされており、会議規則第30条により許可しましたので、お知らせいたします。

○議事

日程第一 議案第4号 板橋区いじめ問題専門委員会への諮問について

(指導室)

教 育 長 それでは、議事に入ります。はじめに、日程第一 議案第4号「板橋区いじめ問題専門委員会への諮問について」を次長と指導室長から説明願います。

次 長 よろしく願います。

議案第4号「板橋区いじめ問題専門委員会への諮問について」でございます。

議案を提出いたします。提出者は、中川修一教育長でございます。

区内学校で発生いたしました、いじめの重大事態に関する調査を開始するため、板橋区いじめ問題専門委員会へ諮問するというものでございます。

詳細につきましては、指導室長からご説明いたします。

指 導 室 長 よろしく願います。

板橋区いじめ問題専門委員会への諮問についてでございますが、区立学校で発生しましたいじめの重大事態に関する調査について、板橋区いじめ問題専門委員会規則、平成26年9月30日に東京都板橋区教育委員会規則第8号第2条第3項に基づきまして、板橋区いじめ問題専門委員会へ諮問するものでございます。

内容につきましては、別紙のとおりでございます。

説明は以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

よろしいですか。

(なし)

教 育 長 それでは、お諮りします。日程第一 議案第4号については、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、そのように決定します。

○報告事項

1. 令和5年度「児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果について

(指-1・指導室)

教 育 長 それでは、報告事項を聴取します。報告1「令和5年度「児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果について」、指導室長から報告願います。

指 導 室 長 令和5年度に実施しました、「児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果について、ご報告申し上げます。

1 ページから3ページ、2/6から4/6ページまでは、令和5年度における種目、学年、性別ごとの東京都平均と板橋区平均との比較を表したレーダーチャートでございます。東京都の平均を50としたときの点線で表し、板橋区を実線で表し比較しています。

例年課題となります全身持久力とボール投げを中心に詳細をお伝えいたします。

1 ページ目は小学校男子です。

ボール投げでは第4学年、第5学年を除いた4つの学年で都の平均と同等か、都の平均値より上回る結果でございました。

20mシャトルランにつきましては、昨年度と同様に第1学年を除いた学年が都の平均値を下回る結果になりました。

2 ページでございますが、小学校女子です。

ボール投げでは第3学年、第5学年を除いた学年で都の平均値と同等という結果でございました。

20mシャトルランでは、男子と同じく昨年度と同様に第1学年を除いた学年が都の平均値を下回っております。

3 ページは中学校です。

ボール投げでは第7学年、第9学年の男子は都の平均値と同等でした。女子は全学年で都の平均値を下回っております。

20mシャトルラン及び持久走では、男子は20mシャトルランは第8学年、持久走は全学年の都の平均値が上回っております。

女子は、20mシャトルランでは第9学年で、持久走では第7学年、8学年で都の平均を上回っております。

続きまして、5/6ページ。資料のページで言いますと4ページになりますが、体力合計点の4年間の推移を学年ごとに表してございます。

体力合計点というのは、1ページの下にございます8種目の記録をそれぞれ得点化し、合計した点数です。令和元年度を50としたときのその後、どのように推移しているかを表しています。

小学生の体力合計点は、令和4年度を下回っている学年がやや多いです。中学生の体力合計点は男子の第8、第9学年が令和4年度を上回ってございます。

続きまして、6/6ページ。資料で言いますと5ページになります。

細かくて大変申し訳ございませんが、令和5年度における種目、学年、性別ごとの東京都平均と板橋区平均との比較を表した表、及び板橋区の令和5年度と令和4年度とを比較した表でございます。

それぞれ色がついた箇所は、板橋区の平均が東京都の平均を上回っている、もしくは前回は上回っているところでございます。

種目別には、小学校がソフトボール投げ、中学校が握力、上体起こし、持久走などで東京都を上回っている学年が多くありますが、体力合計点につきましては、小学校では男子も女子も第1学年、中学校は第8学年男子以外は東京都を下回っている状況でございます。

今後も、体力向上推進計画等の見直しを図るとともに、体育・保健体育科においても運動量を確保しつつも板橋区教育スタンダードに沿った、目当ての提示と振り返りを大切に事業展開を徹底させていきたいというふうに思っております。

さらに、一人一台端末を活用して、児童生徒自身が主体的に自己の体力の課題を把握し、改善するための取組を実施していきたいというふうに考えてございます。

説明の方は以上でございます。

教 育 長 ありがとうございます。質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

長 沼 委 員 ご報告ありがとうございました。

経年変化で見ますと、いわゆるコロナ禍で生活が制約を受けるということになりましたがその辺りとやや令和5年度は生活が元に戻ってきたところですが、何か関係性とかについてはいかがでしょうか。

指 導 室 長 どうしても、コロナ禍のときには、普段の体育の授業の制限もさることながら、通常の体を動かすそもそもの遊びであったり運動的ところが制限された部分が多くございましたので、そのような意味では、確実にそれが必ずしも影響しているかどうかはなかなか言えないところはあるのですが、一つの要因にはなっているかなというふうには考えております。

その表れとして、若干その辺りのところの、コロナ禍を経て通常に戻ってきたところで、少し回復している部分があるかなというのが見て取れます。

ただ、そうは言っても、本区の課題である持久走、20mシャトルランに表れているところであるとか、そのような投てきの方とか投げの方、そしてシャトル

ランの持久走の部分というのは、コロナ禍に入る前からのずっとここ数年の課題ですので、各学校では、一校一取組のような形で、何かそのような増強するところを、各それぞれの適切を持って取り組んでいるところではあるのですが、なかなか学校だけの取組だけでは、このようなところへすぐに変化が出てくるかということ、そこは少し難しい面もあろうかというふうには、分析しているところではございます。

長沼委員 分かりました。ありがとうございました。

教育長 その他、いかがでしょうか。

青木委員 一件、教えてください。

平均値の出し方なのですが、全国学力調査のときにも気になったのですが、中にはとても回答が書けなくて、0点でという話があるとすると、ここにも同じように不得意な子がどうしてもいて、平均を下げているというような流れがもしかしたらあるとすると、平均値の出し方は、例えば95%信頼区間みたいな、少し特異点の子たちは外しておいて取っているのか、それともきれいに枠の中の平均値を取っているのかというのは、その辺をお調べいただけると。

指導室長 特段、外してはおりませんので、全体、全部を取り入れてということになっています。

青木委員 そういう形がという面もこの中に入っていると理解しました。

指導室長 体力のところ、学力もそうなのですが、全体を面で見えていくなかなか、上がったか下がったかというところの数値に注目が行きがちなのですが、これから、東京都もそうなのですが、色々な考え方を変えてきていまして、この数値そのものの体力が向上した何かということではなく、運動に向かう姿勢とか意欲とか、そのような側面を今後はもっと重視していくというところで東京都からもそのような方向性も示されているところではございますので、今後はこのような形の体力の結果についての、本区としての分析であったり、そのようなところも少し検討の余地はあるなというところは認識しているところでございます。

青木委員 そうなのですね。標準体格なども、特異点を外して平均値を取ったりしているので、そういう分析も今後必要なのではないかなと少し思ったのですが、すみません。

指導室長 ありがとうございました。

青木委員 よろしくお願ひします。

教 育 長 そのほか、いかがでしょうか。

野 田 委 員 ご説明ありがとうございます。
東京都全体の平均自体は、コロナ禍を経て改善傾向が見られているのですか。

指 導 室 長 東京都の方は、あまりそこに影響がないというか、特段ものすごく落ちていたものが、ものすごく上がったとかということもなく、割と差はないのですね。
そうすると、うちの方も厳しいところがございます、コロナ禍だけを原因にはできない。これをコロナというのを、東京都全体のことですので、やはりその中で同じような条件で運動の制限は東京都全体である中で、板橋区がなかなかそこが下回っているというところについては、何がそこにあるのかというのは、当然板橋区として、どこが足りなくて、何が課題というのは分析していかなくちゃいけないところだというふうには、認識はしております。

野 田 委 員 ありがとうございます。

教 育 長 そのほか、いかがでしょうか。

高 野 委 員 変化のところで、中学校女子の下がり方が、令和元年から比べてずっと下がった状態が続いているというところが、中学校に入ると女子の場合、運動する機会がすごく減っているのかなというふうに推察したのですが、その辺の分析はいかがですか。

指 導 室 長 体育科の授業においては、男子も女子も、もちろんそこは時間的なところも、本人が参加する、しないというところの時間を除けば、同じ状況であることは間違いないと思うのですが、やはり普段の中学校ももちろん体を動かす時間というものもありますので、そこで校長先生から話を聞くと、あまり外で遊ぶとか体を動かすというのではなく、どちらかという教室の中でちょこちょこお話をしているというのがあって、男子はその分、割と外に出たりとか。部活の面でもその辺りのところは、若干そういう影響もあるのではないかというようなことは、校長先生のお声も来ているので、色々女子生徒の参加の仕方、そこが運動に向かう気持ちであったり、主体的な態度に関わってくることかと思うので、ただ単にこの数値が云々というよりも、女子生徒のそのような運動への意欲というところは、少し見ていく必要があるかなというふうになっております。

教 育 長 今と関連するのですが、運動能力や体力は分かるのですが、生活運動習慣調査が出ているはずなのですが、ここの辺りの分析はいかがでしょう。

指 導 室 長 すみません、こちらの方を表に出してなくて申し訳ございません。ここのと

ころでは、ご報告は申し上げていないので、生活習慣というところと併せまして、またそこは分析をしっかりしてまいりたいというふうに考えております。今回は、運動能力のみを出ささせていただいております。

教 育 長 今、室長がおっしゃっていたように、女子中学生の生徒の運動に関する意欲とかというところが、もし分かる調査であれば、その分析がすごく大事なのではないかなと思うのですが、よろしくお願ひしたいなと思います。
そのほか、いかがでしょうか。

(なし)

○報告事項

2. 令和6年度板橋区立図書館臨時休館日（年間計画）について

(図-1・中央図書館)

教 育 長 それでは、報告2に移ります。「令和6年度板橋区立図書館臨時休館日（年間計画）について」、中央図書館長から報告願ひます。

中央図書館長 中央図書館長でございます。

「図-1」の資料に基づいて、ご説明いたします。

次年度、令和6年度の板橋区立図書館の臨時休館日のご報告をさせていただきます。

1でございます。休館する図書館及び期間、12館でございます。年間で五月雨の形で記載をさせていただきます。

休館の理由につきましては、いわゆる曝書と呼ばれる図書・雑誌及び視聴覚資料の総点検、資料整理を行うためというところでございます。

本件については、ご報告は以上でございます。

教 育 長 質疑意見等ございましたらご発言ください。

(なし)

○報告事項

3. 中学生向け絵本づくりワークショップの実施報告

(図-2・中央図書館)

教 育 長 それでは続いて、「中学生向け絵本づくりワークショップの実施報告」について、中央図書館長から報告願ひます。

中央図書館長 引き続き、中央図書館長でございます。

こちらは事業の報告になります。

「図-2」の資料に基づいてご説明いたします。

中学生向けの絵本づくりワークショップの実施報告でございます。

こちらは「絵本のまち板橋」の事業の一環として、区内の中学生を対象に全4回の絵本づくりのワークショップを行ったものでございます。

2の開催日時について、こちらの中で第1回の絵本づくりで講義を入れます。次に第2回には夏休みを経て、生徒さんがつくっていただいた原画を確認し、入稿という形になります。この間に株式会社オフセット岩村様にて印刷の作業を行っていただき、第3回には大村製本株式会社様にて実際の製本の作業を体験するという形で流れを行っております。第4回は作品の発表会及び講師による講評をいただくという流れになっております。

産業振興課と連携をした形での絵本づくりワークショップとなっております。

参加者数は14名いらっしゃいました。昨年度は10名程度だったものが少しずつ増えているかなと思っております。

4、作品の展示は3月1日から3月7日までの、中央図書館図書館ホールで開催する「いたばし子ども絵本展」で展示をさせていただきます。

2ページは、主な感想などが載っております。お話を考えることや絵を書くことの楽しさ、難しさというところが感想として表れていたところと思います。

こちらの報告については以上になります。

教 育 長 ありがとうございます。質疑意見等ございましたら、ご発言ください。

高 野 委 員 中学生の日程的に製本作業でとか、そういうところに大変時間を取ってくださっているので、出来上がりが大変すばらしいないつも拝見しています。

この中学生と話が違ってしまうのですが、先日、ある小学校で地域図書館の方が出張であいキッズの時間帯に絵本づくりのワークショップをやってくれました。全2回ですので、ここまで充実した内容ではないのですが、拝見したところ、子どもたちは大変意欲的に取組んでいたし、絵本についての講義を聞いていると絵本の魅力を十分に伝えるものだったと思うのですね。ですから、今後も学校連携や、例えば親子の絵本読み聞かせ講習会などでも2回ぐらいで、そのような絵本づくりにチャレンジとかというのでもできるのかなど。あと、出産を控えた方が自分の生まれてくる赤ちゃんのために絵本を作ってみるとか、色々2回のワークショップでできるということが分かったので、これからそのような範囲を広げていけるのかななんていうふうに思いました。

中央図書館長 ご意見ありがとうございます。

そうですね、おっしゃっていただいたみたいに小学生向けのワークショップは地域館で行っているもの、10館がまず1つございます。これは学校などに縛られず、どのような子でも参加ができるようにという内容で図書館で実施をしているものでございます。

併せて学校連携というところで、読み聞かせ交流であったりとか実施することもございます。あいキッズだと今回地域連携という形になってきますので、そち

らの方の事業を指定管理などにおいては、モニタリングにおいて何回やるのかと
いうことを確認させていただいておりますので、このようないいアイデアがござ
いましたというところを還元して、地域で広げられるように案を詰めていきたく
と思います。

教 育 長 そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(なし)

○報告事項

4. 「第30回いたばし国際絵本翻訳大賞」審査結果について

(図-3・中央図書館)

教 育 長 それでは、報告4に移ります。「第30回いたばし国際絵本翻訳大賞」審査
結果について、中央図書館長から報告願います。

中央図書館長 引き続き、中央図書館長でございます。

「図-3」の資料に基づいて、ご説明をいたします。

こちらは「第30回いたばし国際絵本翻訳大賞」の審査結果についてのご報告
でございます。

1、応募状況でございます。

一般の部門は英語部門とイタリア語の部門に分かれております。英語部門は予
定数が1,000件のところ、申込が1,109件ございました。実際に提出を
していただいた作品につきましては、774件といったところでございます。イ
タリア語の部門については300件でございます。受付が306件、実際に応募
いただいたのは228件でございます。軒並み応募自体は定数を超えているとい
う状況でございます。

(2)に中学生の部門を記させていただいております。

中学生部門は英語部門の課題図書を一部分だけ切り取って翻訳をしていただく
という形になります。この中で、上板橋第三中学校などは冬休みの宿題に指定い
ただきましたので、参加人数が201名という形でほぼ全校生徒という形になっ
ております。ほかにも高島第三中学校ではグループでの応募というところになっ
ておりますので、参加者数が134人、作品数は36件という形で応募してい
ただいているものでございます。

次のページに移りまして、審査結果でございます。

英語部門の最優秀翻訳大賞、イタリア語部門の最優秀翻訳大賞、中学生部門の
最優秀賞など、こちらに記載をさせていただいております。

少し飛ばしまして、4、表彰式ですね。こちらは令和6年開催予定の「ボロー
ニャ・ブックフェア in いたばし」にて実施する予定でございます。次年度の夏
頃を予定しております。

5、賞金でございます。

英語部門・イタリア語部門につきましては、大賞を取られた方は15万円、優

秀賞は10万円、特別賞は2万円という形になっております。最優秀翻訳大賞を受賞した作品は、令和6年中に株式会社工学図書様より、和訳本として刊行される予定となっております。

(2)の中学生部門におかれましては、最優秀賞では図書カード5,000円分、優秀翻訳賞には図書カード1,000円分を送らせていただく形になっております。

こちらの報告は以上でございます。

教 育 長 ありがとうございました。質疑意見等ございましたら、ご発言ください。

長 沼 委 員 ご報告ありがとうございました。

中学生の部門の応募で出ていた、上板橋第三中学校がたくさん応募が来ていて、多分これは英語の先生が課題として出したものを応募して、そのまま出してくれたという教育的な活動として、しっかり位置付けているという認識でよろしかったですか。

中央図書館長 そうですね。上板橋第三中学校、中央図書館のすぐ真隣という立地でございますので、校長先生も含めて、かなり前向きに事業に取り組んでいただいているなというところですので、連携をさせていただいているところでございます。

長 沼 委 員 あともう一点、イタリア語部門はイタリアって書いてある方はイタリア在住の方が応募しているということですか

中央図書館長 おっしゃるとおりでございます。国外からの応募もございます。

長 沼 委 員 そうですね。これは今までもありましたっけ。

中央図書館長 こちらに関しましては、応募は特に指定はしておりませんので、今までもございます。

長 沼 委 員 これはいいなと思いましたがね。やはりイタリア・ボローニャと板橋区の連携という意味では、このようなグローバルな、言わば国際交流にも役立っているという点は本当にいいなと思って拝聴していました。ありがとうございました。

教 育 長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

では、次に教育委員会次第にはありませんが、追加報告事項はありますでしょうか。

(なし)

教 育 長　それでは、以上をもちまして、本日の教育委員会は閉会といたします。ありがとうございました。

午前　　10時　23分　閉会